



**NPO**  
**花粉症・鼻副鼻腔炎治療推進会**

Therapeutic Promotion Society for Pollinosis and Rhinosinusitis

**VOL.4**

[www.hanamizu.jp](http://www.hanamizu.jp)

# 巻頭のご挨拶

## NPO 花粉症・鼻副鼻腔炎治療推進会

### 「パンフレット(第4号)」の刊行によせて

#### アレルギー疾患対策基本法や新規の指定難病の施行をふまえて

平成25年10月16日設立の当特定非営利活動(NPO)法人 花粉症・鼻副鼻腔炎治療推進会(以後 NPO)も3年余が経過しました。平成27年12月25日にはアレルギー疾患対策基本法が施行されました。この法律でいうところのアレルギー疾患には、アレルギー性鼻炎や花粉症以外に、気管支喘息、アトピー性皮膚炎、アレルギー性結膜炎、食物アレルギーが含まれます。今後は、全身的なアレルギー性疾患の視点から、鼻炎、花粉症などの対策を考えていく必要があると思われます。

また、平成27年は副鼻腔炎治療にとっても重要な出来事がありました。副鼻腔炎の中でも、高頻度に喘息を合併する難治性、易再発性の難治性副鼻腔炎(好酸球性副鼻腔炎と言います)が、平成27年7月1日施行の新規の指定難病に加えられました。今後、新しいサイトカイン療法なども期待されると思いますが、そうした情報の普及、啓発も当NPO花粉症・鼻副鼻腔炎治療推進会のすべき活動の1つと考えております。

来年2月5日(日)には、「第4回花粉症市民講座」(参加費、無料)も開催されることになっています。今回は、これまでと異なり平成28年12月28日から平成29年3月20日まで上野の国立科学博物館で開催される「花粉と花粉症の科学」展(主催:国立科学博物館、花粉問題対策事業者協議会)の中で、4つある講座のうちの1つとして開催されます。

当NPOのホームページからも参加申し込みができますのでふるってご参加ください。



ホームページ <http://hanamizu.jp/>



主催:国立科学博物館、花粉問題対策事業者協議会  
(後援:文部科学省、農林水産省、経済産業省)

平成29年1月10日

特定非営利活動法人  
花粉症・鼻副鼻腔炎治療推進会  
理事長 大久保公裕



## アレルギー週間「第4回 花粉症市民講座」

# 花粉症の治療、ここに注目、ここが重要!!

[主催] 特定非営利活動法人(NPO)花粉症・鼻副鼻腔炎治療推進会

花粉症の季節が近づいてきました。症状がひどくなると日常生活にも影響を与えかねません。

正しい知識をもって対処するために、今年の花粉予測や食事による予防策など、役立つ情報を専門家を交えて紹介します。たくさんの方のご参加をお待ちしております。

**日時** 平成29年2月5日(日) 13:00~14:30(12:30受付開始)

**場所** 国立科学博物館 日本館2階 講堂  
東京都台東区上野公園7-20  
TEL:03-5777-8600(ハローダイヤル)  
<http://www.kahaku.go.jp/>

**アクセス** ●JR「上野駅」公園口から徒歩5分

●東京メトロ 銀座線・日比谷線  
「上野駅」から徒歩10分

●京成電鉄「京成上野駅」から徒歩10分

※駐車場はありませんので、お車での来館はご遠慮ください。



**参加費** 無料(ただし事前の登録(申し込み)が必要です。)

**定員** 100名(※定員になり次第、募集を終了します。)

**プログラム** 12:30 受付開始

13:00 開講 総合司会：松根彰志(NPO 事務局長)

13:10 講演 司会：宮本昭正(公益財団法人 日本アレルギー協会 理事長)  
講演内容：「花粉症治療の最前線」  
講師：大久保公裕(NPO 理事長)

14:10 質問コーナー(申し込み時にお寄せいただいたものを優先してお答えします。)

14:30 終了

**お申し込み方法** ●ホームページでお申し込みください

<http://hanamizu.jp/>

にアクセスいただき、専用フォームにご入力ください。整理番号等を書いた受講証を返信先メールアドレスにお送りします。

**締切** 平成29年1月30日(月) ※電話・FAXでのお申し込み等は受け付けていません。



**【司会】**  
宮本昭正

日本臨床アレルギー研究所所長、新橋アレルギー・リウマチクリニック院長、  
国際アレルギー・臨床免疫学会の会長、日本アレルギー学会の理事長などを歴任。  
喘息、内科、アレルギー、呼吸疾患、リウマチ・膠原病が専門分野で多方面で活躍している。

## 講演内容(抄録)



### 【講師】

大久保公裕

NPO 花粉症・副鼻腔炎治療推進会 理事長

1984年 日本医科大学 卒業、1988年 日本医科大学大学院修了

1989年～1991年 アメリカ国立衛生研究所(NIH)留学

日本医科大学大学院 医学研究科 頭頸部・感覚器科学分野教授

日本耳鼻咽喉科学会 代議員

日本鼻科学会 理事

日本耳鼻咽喉科免疫アレルギー学会 理事

日本アレルギー学会 常任理事

第63回日本アレルギー学会秋季学術大会(2013年、東京)会長

### 「花粉症とは」

日本におけるスギ林の面積は全国の森林の18%、国土の12%を占めています。このためか花粉症の患者さんの約70%はスギ花粉が原因で、2008年の調査では人口の26.2%という有病率が示されています。

### 「最新の治療」

花粉症の治療は他の鼻や眼のアレルギーの治療と基本的には同じですが、急激に花粉にさらされたために起こる急性の強い症状への配慮も必要となります。

対症療法: 点眼、点鼻薬などによる局所療法

内服薬などによる全身療法

根治療法: 原因抗原(花粉など)の除去と回避

減感作療法(抗原特異的免疫療法)

抗ヒスタミン薬は鼻のヒスタミン受容体に結合して、アレルギー反応が起って肥満細胞からヒスタミンが出されても症状が出ないようにします。抗ヒスタミン薬は多かれ、少なかれ眠気が出る場合があります。抗ロイコトリエン薬は特に鼻づまりに効果のある花粉症の薬で、全く眠くなる成分は入っていません。また鼻噴霧用ステロイド薬も主な症状すべてに効果が認められ、新しいものは非常に安全な薬になっています。これらの使用方法では症状悪化に伴い数日間の連続投与でも大丈夫ですが、症状の非常に悪化する症例では花粉飛散季節中

の連続的な薬剤使用が望まれます。

これまでに分かっている花粉症(アレルギー)を治すことのできる唯一の治療法は、『アレルギー免疫療法』という治療法です。これは、アレルギーを引き起こす原因となっている物質(花粉)を、定期的に体内に入れることで、徐々にアレルギー反応の起きない体質に変えていく治療法です。現在、『皮下免疫療法』と『舌下免疫療法』があります。安全性の観点からこの『舌下免疫療法』が現在広がりを見せています。根本的治療として何年か行えば、その後の症状が出現しないことが期待されています。

花粉症の症状の緩和には手術的治療も行われます。花粉症に対してはレーザーでの日帰り凝固手術として行われています。しかし症状の再発や手術時の痛みなどもありますので、良く先生と相談して行くかどうか決めてください。

### 「セルフケア」

花粉の回避は①花粉情報に気をつける。②飛散の多い日は外出を控える。窓、戸を閉めておく。③マスク、眼鏡を使う。④外出から帰宅したら洗眼、うがいをし、鼻をかむなどがあります。上手に花粉から逃れられるように先生からのアドバイスも受けて考えてください。

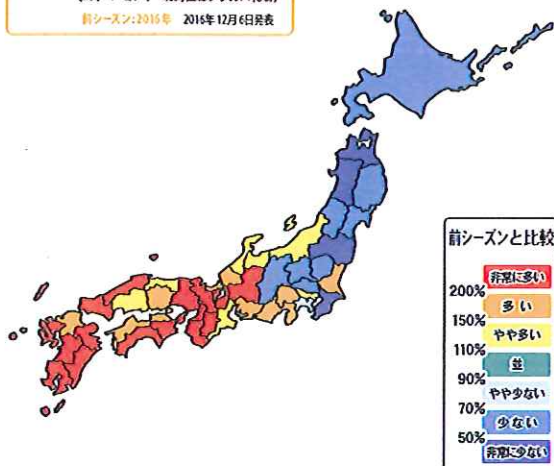
## 2017年 スギ花粉情報

前シーズン比

2017年の花粉の飛ぶ数は?

(スギ + ヒノキ 北海道はシラカバ花粉)

前シーズン:2016年 2016年12月6日発表

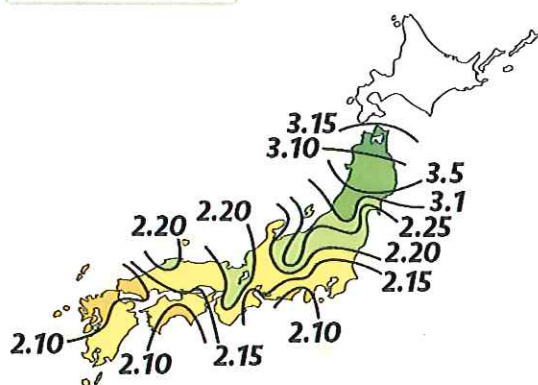


tenki.jp JMA 日本気象協会

予測

2017年スギ花粉前線

2016年12月6日



tenki.jp JMA 日本気象協会

(2016年 日本気象協会 HP 抜粋)

## ダニによるアレルギー性鼻炎とスギ花粉症



ヤケヒョウヒダニ



コナヒョウヒダニ

通年性アレルギー性鼻炎  
ダニに対するアレルギー



スギ雄花



季節性アレルギー性鼻炎  
花粉症

**合併している事がありますので要注意です!**

アレルギー性鼻炎、副鼻腔炎、加齢現象などと「鼻水・のどの流れ込み」をわかりやすく解説しています。ネットで検索し全文ご覧いただくことが可能です。参考にしてみてください。

- ① 2016年(平成28年) 10月26日 朝日新聞 朝刊 17ページ「生活」  
朝日新聞DIGITAL どうしました「鼻汁がのどに流れ込む」 <http://www.asahi.com/news/>
- ② 2016年(平成28年) 11月17日 読売新聞 朝刊 17ページ「くらし」  
YOMIURI ONLINE yomiDr. くらし・健康「鼻水はなぜ出る？」 <https://yomidr.yomiuri.co.jp/article/>

水曜日 12版▲ 生活 24

## どうしました

### 鼻汁がのどに流れ込む

72歳女性、昨年10月から鼻汁がのどに流れ込んだり、張り付いたりして悩んでいます。耳鼻科には「後鼻漏」と診断されました。後症やアレルギー性鼻炎が原因で、薬や対処法がないと言われましたが、治すとはできないのでしょうか。(東京都・シ)

Q 後鼻漏とは、鼻の奥から出る鼻汁がのどに流れ込むことですか？

A 鼻汁が前に流れて鼻詰まりや鼻水がのどに流れ込んでくるのが後鼻漏です。たががのどに張り付く、たんが絡んできたり、後症やアレルギー性鼻炎が原因で、薬や対処法がないと言われたことが、治すとはできないのでしょうか。(東京都・シ)

Q 何が原因ですか？

A 鼻の奥にある副鼻腔で炎症が起きている副鼻腔炎や、アレルギー性鼻炎によって引き起こされることが多く、後鼻漏の原因の約7割を占めます。本人は症状を感じているのに、鼻内視鏡検査やCTスキャンなどで診断しても症状が見られないこともあり、「後鼻漏」と呼んでいます。ほかに、胃液が逆流する逆流性食道炎で、のどの違和感を訴

**松根 彰志さん**  
まつかね しょうし  
日本医科大学武蔵小杉病院 耳鼻咽喉科  
日本耳鼻咽喉科学会 代議員

① 朝日新聞

2016年(平成28年)11月17日(木曜日) 奇聞 5

## 異物排出 鼻の防衛反応

風邪をひいたりアレルギー性鼻炎になったりする。止まらなくなる鼻水、鼻水が出す今の季節、どうして出るのかを究む。

そもそも鼻は、においをかく呼吸をする以外、どんな役割を担っていますか。日本医科大学教授で同大武蔵小杉病院耳鼻咽喉科部長の松根彰志さん。「同じ鼻から出る鼻水が、時に流れる前に、適切な湿度や温度になるよう調整するエアコンのような機能があり、吸い込んだ空気に含まれる異物を取り除くフィルターのような機能があります」と説明する。

重要なのが、鼻の中の粘膜を覆う粘液だ。粘液は粘り気のある鼻毛という特殊な成分で、鼻毛から粘液を塗った状態で戻ってくる。この粘液が、鼻腔に侵入した異物を吸着する働きをする。

鼻は、粘膜の表面にある繊毛と呼ばれる指状な毛の動きで、鼻毛の揺り動かすことにより、鼻毛が、鼻腔に侵入した異物を吸着する働きをする。

鼻は、粘膜の表面にある繊毛と呼ばれる指状な毛の動きで、鼻毛の揺り動かすことにより、鼻毛が、鼻腔に侵入した異物を吸着する働きをする。

鼻は、粘膜の表面にある繊毛と呼ばれる指状な毛の動きで、鼻毛の揺り動かすことにより、鼻毛が、鼻腔に侵入した異物を吸着する働きをする。

② 読売新聞

今回の朝日新聞、読売新聞の記事では、以下のような問題について、わかりやすく解説しています。

1. 鼻水はどのようにして、何のためにつくられるのですか？
2. 鼻汁がのどに流れこむ症状を「後鼻漏」と言います。正常でも鼻内の粘液はのどから、食道、胃に流れこみますが、副鼻腔炎（よく蓄膿症などと呼ばれています）や鼻炎などで、粘液の量が増加したり性質が変化すると、つらい「後鼻漏」症状として訴えられます。
3. 高齢化に伴い鼻粘膜の萎縮などの変化が起こってきますと、病気ではない「老人性鼻漏」症状が出てくる可能性があります。

今後、これらの記事で書かれた内容を、NPO ホームページ (<http://hanamizu.jp/>) でも随時掲載していきたいと思っておりますので、どうぞご期待ください。



**松根 彰志**  
NPO 花粉症・鼻副鼻腔炎治療推進会 事務局長

1984年 鹿児島大学医学部医学科 卒業、1988年 鹿児島大学大学院 修了  
1988年～1990年 米国ピッツバーグ大学医学部 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 留学  
2000年 鹿児島大学医学部 耳鼻咽喉科・頭頸部外科学 助教授

日本医科大学医学部 耳鼻咽喉科学 教授  
日本医科大学武蔵小杉病院 耳鼻咽喉科部長  
日本耳鼻咽喉科学会 代議員  
日本アレルギー学会、日本鼻科学会、耳鼻咽喉科感染症エアロゾル学会 各代議員など

## 研究支援報告「神奈川アレルギー疾患を考える会」

原著論文「小児スギ花粉症初期療法におけるロイコトリエン受容体拮抗薬の有用性の検討」アレルギー 65(1) 57-65, 2016.

### ● 初期療法:花粉の本格飛散時期より前から内服を開始する薬物治療の方法

#### 論文要約

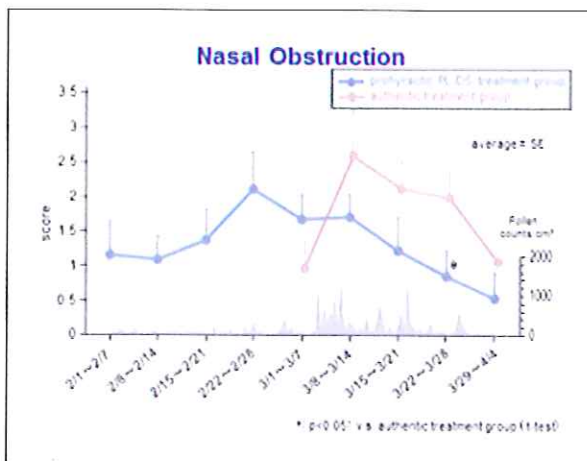
**背景・目的** ロイコトリエン受容体拮抗薬の成人のスギ花粉症に対する初期療法の有効性は既に報告されている。また、小児でも10歳以上を対象とした花粉暴露室を用いた報告は認められるが、就学前後の幼児のスギ花粉症に対するロイコトリエン受容体拮抗薬の初期療法の有効性を臨床現場で検討した報告は認められないので今回検討することとした。

**方法** 就学前後のスギ花粉症児童を対象に2013年、2014年のスギ花粉飛散シーズンに、ロイコトリエン受容体拮抗薬による初期療法を行い、花粉飛散後に同薬剤を投与開始した場合の効果と比較検討した。

**結果** 2シーズンとも初期療法を行った群では夜間の睡眠状態が有意に良好であった。また、花粉飛散量の少ないシーズンの方が、多いシーズンと比べてより多くの症状に対して初期療法が有効であった。

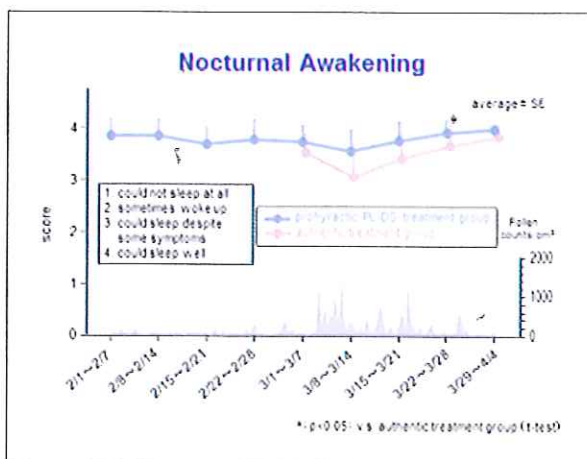
**結語** ロイコトリエン受容体拮抗薬は、就学前後の小児のスギ花粉症に対しても、初期療法の薬剤として有効であった。

### ● 花粉の飛散総数(横浜地区)は2013年7334個、2014年は2110個



鼻づまり症状に対する効果(2013年)

初期療法群(青)では、飛散後投与開始群(ピンク)と比べて、鼻閉症状は軽い傾向にあった。  
3月22日~28日では統計学的に有意差を認めた。



夜間の覚醒症状に対する効果(2014年)

初期療法群(青)では、飛散後投与開始群(ピンク)と比べて、覚醒なくよく眠れる傾向にあった。  
(スコアが大きいほど睡眠良好)  
3月22日~28日では統計学的に有意差を認めた。

## NPO 花粉症・鼻副鼻腔炎治療推進会の他の活動

### 1) 第3回 NPO定期役員会・総会を開催

日時 平成28年8月27日(土) 17時~18時30分

場所 ステーションコンファレンス万世橋 〒101-0041 東京都千代田区神田須田町1-25 JR神田万世橋ビル

### 2) 第5回 神奈川気道炎症病態研究会を支援

日時 平成28年 9月30日(金) 17時~19時15分

場所 ホテル横浜キャメロット(日本耳鼻咽喉科学会専門医領域講習・1単位)

座長 大上 研二 先生(東海大学医学部 専門診療学系 耳鼻咽喉科学 教授)

特別講演① 「耳鼻咽喉科免疫関連疾患のパラダイムシフト 鼻アレルギーを中心に」  
太田 伸男 先生(東北医科薬科大学 耳鼻咽喉科 教授)

座長 金子 猛 先生(横浜市立大学大学院医学研究科 呼吸器病学 主任教授)

特別講演② 「成人喘息診療のUp to Date」  
石塚 全 先生(福井大学 病態制御医学講座 内科学(3) 教授)

### 3) 花粉問題対策事業者協議会への参加

花粉症問題対策事業者協議会とは? (<https://www.kafunbusiness.org/>)

「国民病・花粉症」への対策は、もはや一企業、研究機関、行政だけでなせることではありません。各分野への事業者、研究団体、省庁が一丸となって対策を見出していく課題であり、「オールジャパンで花粉問題対策に取り組む」ことを旗印に、様々な活動を展開しています。事務局は、NPO産学連携推進機構(理事長妹尾堅一郎氏 <http://www.nposangaku.org/>)内にあります。

「花粉と花粉症の科学」展 主催:国立科学博物館、花粉問題対策事業者協議会(後援 文部科学省、農林水産省、経済産業省)の展示の一部、および第3回講座(当NPOによります アレルギー週間 第4回 花粉症・市民講座として)を担当します。

## 「アレルギー週間」と「鼻の日」

### ◆ 2月17日~2月23日 「アレルギー週間」 日本アレルギー協会

日本アレルギー協会(財団法人)により1995年(平成7年)以来、毎年2月17日~2月23日を「アレルギー週間」とすることが定められました。石坂公成先生がIgE抗体を発見し、米国のアレルギー学会で発表された2月20日を「アレルギーの日」と制定し、その前後1週間(毎年2月17日~23日)を「アレルギー週間」として様々な活動を行っています。東京でのアレルギー週間中央講演会をはじめ、全国の支部で一般の方を対象に様々な催しを行っています。

### ◆ 8月7日 「鼻の日」 日本耳鼻咽喉科学会

日本耳鼻咽喉科学会では、1961年(昭和36年)以来、毎年8月7日を「鼻の日」と制定して鼻疾患に対する啓発を行っています。制定当時は副鼻腔炎(蓄膿症)の患者さんが多く、社会生活や学業に大きな影響を与えていたので、この疾患の早期発見、早期治療を勧めることを目標にしていました。副鼻腔炎は、軽症化の傾向にありますが、依然、頻度としては多い疾患です。辛い薬剤の進歩や内視鏡手術の普及により治療率が向上しています。一方、スギ花粉症などのアレルギー性鼻炎は、近年さらに頻度が上昇しており、国民病とまでいわれるようになってきました。また、においの障害は生活の質(QOL)と関連して大きな問題ですが、まだまだ社会的認知が十分でない状況です。



---

---

## 謝 辞

多くの企業様、団体様に「特定非営利活動法人(NPO)花粉症・鼻副鼻腔治療推進会」の活動をご理解、ご賛同いただき、アレルギー週間「花粉症市民講座」の開催、ホームページの開設と運営等ご支援いただいております。ここに心よりお礼を申し上げますとともに感謝の意を込めまして、お名前を掲載させていただきます。(50音順)

今後とも尚一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

特定非営利活動法人 花粉症・鼻副鼻腔炎治療推進会  
理事長 大久保公裕

社会医療法人 翔和仁誠会  
社会医療法人 正志会  
社会医療法人 石心会

アステラス製薬

MSD

杏林製薬

グラクソスミスクライン

サノフィ

SIEMENSヘルスケア

大正富山医薬品

大鵬薬品工業

第一三共

田辺三菱製薬

東京鼻科学研究所

東京臨床薬理研究所

鳥居薬品

バイエル薬品

Meiji Seikaファルマ

モリタ製作所

平成28年12月末日現在

**NPO 花粉症・鼻副鼻腔炎治療推進会  
パンフレット第4号**

編集責任者 松根彰志(事務局長)

U R L <http://hanamizu.jp/>

印 別 2016年12月20日

印 別 所 エヌ・ピー・エフ株式会社(東京都港区)

U R L <http://www.npfbros.co.jp>